

JA全厚連情報

(毎月 1日 発行)

No.1117 2022 年 7 月 1 日

目 次

- 新型コロナウイルス感染症にかかる対応等について協議 1
厚生連常勤役員・参事会議を開催
- 厚生労働大臣への申入れに対する対応状況等について協議 2
農民の健康を創る会 総会を開催

・通信員だより

- オンライン意見交換会の実施（北秋田市民病院） 4
- 心あたたまる卒園式（由利組合総合病院） 5
- JA福島ビル職域接種（3回目）を実施（JA福島厚生連） 6
- 新入職員研修会開催（JA福島厚生連） 7
- JA常陸・奥久慈支部会からの生け花（JA茨城県厚生連） 8
- JA茨城県厚生連看護職7名が受賞（JA茨城県厚生連） 9
- 鹿行地区JA青年部による農産物即売会（JA茨城県厚生連） 10
- 相模原市“とまと屋”よりトマト寄贈（相模原協同病院） 11
- 看護の日無料イベント開催（相模原協同病院） 12
- 管理部総合職新人研修を開催しました（JA長野厚生連） 13
- 看護専門学校2校で看護立志式を挙行（JA静岡厚生連） 14
- 2年7か月にわたる大型施設整備がついに完工！安城更生病院の発展的再構築（安城更生病院） 15
- 「看護の日」のイベントを行いました（渥美病院・足助病院・知多厚生病院） 16
- 増改築工事の竣工式を行いました（JA愛知厚生連） 17
- QC活動発表会を開催（JA三重厚生連） 18
- いなべ総合病院に敷地内薬局開局（JA三重厚生連） 19
- 令和4年度事務職員基礎研修会を開催（JA三重厚生連） 20
- 日本赤十字社ハウクライナ人道危機救援金贈呈（JA徳島厚生連） 21
- ◇会議日程 22

お知らせ



JA全厚連

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkoren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkoren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

新型コロナウイルス感染症にかかる対応等 について協議

厚生連常勤役員・参事会議を開催

本会は5月26日、東京・大手町のJAビルにおいて、厚生連常勤役員・参事会議をWEB併催した。

会議に先立ち、佐藤賢治氏（（一社）日本農村医学会 理事長、JA新潟厚生連・佐渡総合病院 病院長）が「少子高齢社会における社会保障～持続可能な医療体制に向けて～」をテーマに講演を行った。講演では、少子高齢化の進展により、医療資源、医療需要が減少し、病院運営はますます困難になることから、病院間の機能分担が必要不可欠とした上で、機能分担の検討の視点やすすめ方について、医療圏のモデルを用いて説明が行われた。また、佐渡医療圏における医療機能分担の事例報告と、「さどひまわりネット」を通じた患者情報共有等の取り組みの紹介が行われた。

会議では、協議・報告事項として、（1）令和4年度事業企画委員会の運営、（2）厚生連職員の研修にかかる検討、（3）令和4年度厚生連病院財政調整事業の実施、（4）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（5）令和4年度診療報酬改定にかかる要望結果、令和4年度診療報酬改定にかかるシミュレーション結果、（6）厚生連の令和3年度経営収支状況、（7）令和3年度経営収支状況による健全性指標とその対応、（8）厚生連の経営改善への本会の取り組み、（9）令和3年度特別交付税措置の活用状況、（10）本会の新しい取り組み（厚生連病院帳票・厚生連介護帳票）、（11）令和3年度全厚連収支実績一等について協議・報告した。

また、会議の終わりに各厚生連から現状等について報告をいただき、新型コロナウイルス感染症関連補助金の継続ならびに光熱費・材料費等の物価高騰への対策について、政府への働きかけを求める意見が出された。

厚生労働大臣への申入れに対する 対応状況等について協議

農民の健康を創る会 総会を開催

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」（以下、「創る会」という。）総会が、6月7日に自由民主党本部7階「704号室」で開催された。



農民の健康を創る会・森山会長

総会には、森山会長をはじめ、衆・参の会員議員計39名が出席（本人出席23名、代理出席16名）し、農林水産省からは武部副大臣、厚生労働省からは審議官などが出席した。

J Aグループからは、本会の中瀬省経営管理委員会副会長、J A全中の肱岡弘典常務のほか、J A北海道厚生連・網走厚生病院の中野詩朗病院長らが出席した。また、日本赤十字社渡部洋一医療事業推進本部長、済生会松原了理事も出席した。

森山会長の挨拶後、議事に入り、三ツ林事務局長から創る会幹事会（3月22日開催）および翌23日に実

施された厚生労働大臣への申入れについて報告が行われた。厚労省からは、申入れに対する対応状況（①看護職員等の処遇改善、②医師の偏在是正および医師の働き方改革、③新型コロナウイルス感染症対策の継続）について説明が行われた。本会からは、中村理事長が厚生連の令和3年度経営収支等の説明を行った。

出席した議員からは「看護職員等の処遇改善については、10月以降は診療報酬で手当される予定



挨拶する本会・中瀬副会長

であるが、診療報酬は患者数によって左右されるため無理がある。医療機関に負担をかけないように配慮してもらいたい」等の意見が出された。

意見交換では、中野病院長から、厚生連病院が地域医療を支えていくための医師確保策について「地方へ医師を派遣するインセンティブとして管理者の認定だけでは先が遠すぎる、専門医制度の中でのインセンティブが必要」と意見が述べられた。

厚労省の大坪審議官は「専門医制度の中で何ができるのか、地域卒の学生に対する就学支援金や大学から医師を派遣する際のインセンティブなど、色々のご相談させていただきながら考えてまいりたい」と発言し、それを受け、三ツ林事務局長は「中野病院長からの提言は大変重要である。ぜひ、厚労省は力を入れて頑張ってもらいたい」と述べた。



網走厚生病院・中野病院長

○ 農民の健康を創る会総会の様子



左から永岡幹事長代理、野村会長代理、森山会長、金田会長代行、宮下幹事長、三ツ林事務局長



オンライン意見交換会の実施

(JA秋田厚生連・北秋田市民病院)

北秋田市民病院(神谷彰病院長)では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、集合研修が行いにくい状況が続いている中で、3月24日にZOOMを利用し、北秋田市近隣のケアマネジャーの皆さんと「令和3年度意見交換会～コロナ禍における退院支援～」と題してオンライン意見交換会を実施しました。

約2年前までは、当地域のケアマネジャーや施設職員を対象に、当院を会場として年1～2回実施していましたが、オンラインは初めての試みです。

当院、患者サポートセンター長の佐藤誠医師が開会の挨拶を述べたあと、2グループに分かれてグループワークを行い、「感染対策としての面会制限のため、入院患者の様子が分からない」「看護師やMSWから聞いた情報と、退院時に実際に見た患者状態に相違がある」という2点が共通した意見として挙げられました。

その他にもすぐに対応できる提案や、検討の継続が必要な提案があり、コロナ禍におけるよりよい退院支援に向けて貴重な意見を聞くことができました。閉会後のアンケート結果でも、8割を超える参加者から満足の意向が示されるなど、有意義な会を開催できたと思います。

今後も面会制限や集合会議等を行いにくい状況が続くことも予想されますが、今回のようなオンラインを有効活用し、柔軟に対応しながら活動を継続して、地域包括システム構築に寄与して参りたいと思います。



オンライン意見交換会の様子

(三浦由佳通信員)

心あたたまる卒園式

(J A秋田厚生連・由利組合総合病院)

由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）院内保育所では、6度目の卒園式が行われました。開所して以来、4名の卒園児というのは初めてでしたが、普段から仲良しの4名は、式本番でもチームワーク良く、歌やお別れの言葉を披露してくれました。保護者の方々と共に、保育所職員たちも子どもたちの成長に涙々で、入園してからの出来事を思い出しながら、4名の卒園児をそれぞれの小学校に送り出すことができました。卒園式の練習を始めた頃は、「卒園したくない。院内保育所が大好きだから…」という言葉も聞かれ、練習中に泣きそうになることもありました。在園児も、やさしくて面白い年長さんたちが大好きだったので、「卒園式が来なければいい」と言っていました。本当に一つの大きな家族になって、みんなでいろいろなことを乗り越えてきたんだな、と実感させられた卒園式でした。

出席していただいた軽部彰宏院長のあたたかい祝辞や式終了後に保育室で行われた保護者から子どもたちへの手紙の披露など、一つひとつがとてもアットホームで素晴らしい卒園式となり、感謝の気持ちでいっぱいです。

平成22年に開設した院内保育所は働く父母をサポートし、たくさんの笑顔に支えられて、運営してまいりましたが、令和4年度をもって閉園となります。



卒園式の様子

これまで温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

(三浦由佳通信員)

J A福島ビル職域接種（3回目）を実施

（J A福島厚生連）

J A福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）では、J A福島グループを対象に5月19日～21日の3日間で、福島市J A福島ビルにおいて、新型コロナウイルスワクチンの職域接種（3回目）を実施しました。ワクチンはモデルナ社製を使用、実施期間の3日間で約700人の対象者に接種しました。

今回の職域接種の対象は、中央会、連合会、子会社、関連団体の職員、家族、J Aふくしま未来、J A夢みなみの職員など計30団体。福島市のJ A福島ビルで19日・20日は1日、21日は午前中で実施しました。J A福島厚生連で医療スタッフを派遣し、福島県農協会館診療所を中心に、1日に医師2名、看護師3名が参加しました。

実施期間中は医師の予診ブース及び看護師の接種ブースを2レーン体制で臨み、大きなトラブルも無く、3日間スムーズに終える事が出来ました。



予診の様子



接種の様子

（佐藤剛通信員）

新入職員研修会開催

(J A 福島厚生連)

J A 福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）では、6 月 11 日に福島市の J A 福島ビルで新入職員研修会を開催し、55 名の新入職員が参加しました。今回の研修会では、J A の基本理念を学び組織の一員としての自覚を深め、地域医療を担う職員として人間性を磨き、良質なサービスを提供できる能力を養うとともに、メンタルヘルスケア対策としてストレスの予防法・対処法を学ぶことを目的に開催しました。

はじめに、佐久間雅樹代表理事常務から「J A 福島厚生連の使命と事業」と題し講演頂きました。続いて、白河厚生総合病院（大木進司病院長）の木村巳代子公認心理師を講師に招き、「ストレスマネジメント」をテーマに学習し、午後には秋山朋子看護教育担当部長より「チームビルディング研修」と題し、レクリエーションを中心に研修を行いました。

研修では、入会してからの 3 か月間を振り返り、各々が感じた困り事や悩み事に対する解決策をグループで検討したり、共通目標達成のためにはどのように協力していく必要があるかなどを学びました。受講者からは、「グループワークを通じ様々な職種の方と意見交換が出来てよかった」との声が聞かれました。

今後も J A 福島厚生連は、地域医療を担っていることを改めて自覚し、一層の努力をしていきたいと思ひます。



研修会の様子

(佐藤剛通信員)

J A 常陸・奥久慈枝物部会からの生け花

(J A 茨城県厚生連)

J A 茨城県厚生連 (酒井義法・代表理事理事長) 他、各連合会が事務所を構える茨城県 J A 会館に、J A 常陸・奥久慈枝物部会による生け花が飾られました。

新しく就任した菊池部会長や石川会長、笹島前部会長が挨拶で会館を訪れた際に生けられ、ドウダンツツジ、夏ハゼ、姫リョウブ、ビバーナム等から成る花は縦横約 3 メートルと非常に大きく、鮮やかさの中に生命力が強く感じられる展示となりました。

また、同会館にプレオープンした J A グループ茨城の魅力を発信する「クオリテ Lab」のスタートにも花を添えるものとなりました。

玄関に常時ライトアップされ、会館を訪れた方々を魅了しています。



入口に飾られた生け花



「クオリテ Lab」

(酒井一彦通信員)

J A 茨城県厚生連看護職 7 名が受賞

(J A 茨城県厚生連)

6 月 17 日、公益社団法人茨城県看護協会が主催する令和 4 年度茨城県看護協会通常総会が、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて開催されました。同総会では、県内で看護業務に献身的に従事して功績を上げた方、また、日本及び茨城県看護協会の発展向上のために貢献した方への表彰授与式が行われました。茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）からは、茨城県看護協会会長賞を土浦協同病院より 2 名、県北医療センター高萩協同病院、J A とりで総合医療センター、茨城西南医療センター病院、土浦協同病院なめがた地域医療センター、土浦協同病院附属看護専門学校よりそれぞれ 1 名ずつの計 7 名が表彰を受けました。

式典終了後、茨城県看護協会会長賞を受賞した土浦協同病院の木上春美看護副部長は、「この度の受賞は茨城県厚生連全体の看護師の支援があつてのことであり、それぞれの地域で看護師たちが努力してきたからだと思います。今後も微力ながら、全力を尽くして頑張っていきたいと思います」と感想を述べました。



受賞した茨城県厚生連看護職員

(酒井一彦通信員)

鹿行地区 J A 青年部による農産物即売会

(J A 茨城県厚生連)

6 月 1 7 日、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の玄関前で、鹿行地区 J A 青年部による農産物即売会が行われました。同部は J A 茨城旭村、 J A なめがたしおさいの各青年部員 111 人で構成され、新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響でさまざまな活動を自粛しておりましたが、感染者数の落ち着きや、販売会を待ち望む声を受け、今回は 3 年ぶりの開催となりました。

即売会は早々に注目を集め、病院に訪れた方だけでなく、地元商店街の方も集まり、メロン、ピーマン、さつまいも、きゅうりなど、用意された農産物はあっという間に完売となり、大盛況のうちに終了となりました。

新型コロナウイルス感染症が今後どのようなようになるかは予測できませんが、このようなイベントが定期的に行われ、病院に来院された方や地域が元気になってくれればと願います。



大盛況となった即売会の様子

(酒井一彦通信員)

相模原市 “とまと屋” よりトマト寄贈

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和4年4月11日に相模原協同病院（井關治和病院長）では、相模原市緑区の“とまと屋” 笹野哲夫さんよりトマトを寄贈賜りました。

全職員へお渡ししたいとの思いから、1,000 袋のトマトを3日間に分けて届けてくださいました。普通のトマトは夏に収穫ですが、こちらの“とまと屋”さんでは循環式の水耕で育てるハイポニカ農法で栽培しており、収穫時期は11月～5月。ハイポニカ農法は土耕で育てたトマトよりも甘いのが特徴です。

私もいただきましたが、酸っぱさの中に甘みを感じるコクのあるおいしいトマトでした。地元の方のご支援に感謝いたします。



院長、看護部長と記念写真



院長より感謝状が贈られました

(新嶋友梨恵通信員)

看護の日無料イベント開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

毎年5月12日は「国際看護師の日」です。各地でさまざまなイベントが行われますが、相模原協同病院（井關治和病院長）でも看護の日にちなんで5月10日に地域住民向けの無料イベントを開催しました。

イベントでは当院認知症看護認定看護師副師長・鵜沼めぐみによる特別講演「これって認知症？」が行われました。参加された方々はメモを取り、質疑応答も活発に行われ熱心に聴いていました。認知症に対する正しい知識を知ってもらえたのではないのでしょうか。



鵜沼副師長による講義



講演・質疑応答の様子

(新嶋友梨恵通信員)

管理部総合職新人研修を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(社浦康三・代表理事理事長)は5月27日に管理部総合職新人研修を開催し、1年目の総合職職員5名の参加がありました。この研修は、社会人としての心構えをつくり、厚生事業並びに病院の仕組みを理解することでいろんな局面に適切に対応できる人材の育成を目的とし毎年開催しています。

講師には、JA長野中央会JA支援部主任調査役の萩原圭氏を迎え、「組織で働くうえでの基本」を学びました。参加者からは「業務における問題点の抽象化から解決策の具体化について、自分の不足している点が理解できた」「仕事の進め方に大切なコミュニケーションの取り方や自分の仕事の姿勢を学ぶことができた」などの声が寄せられました。

辞令交付式から約2か月たって初めての顔合わせだったため、休憩時間中はお互いの近況報告等の話で盛り上がりました。次回は8月に開催予定となっています。



講義を行う萩原先生



グループワークの様子

(山岸愛通信員)

看護専門学校 2 校で看護立志式を挙行

(J A 静岡厚生連)

J A 静岡厚生連 (荒田庄治・代表理事理事長) の運営する看護専門学校 2 校が、5 月下旬にそれぞれの会場で看護立志式を行いました。

来賓や保護者、教職員が見守る中、2 年生 74 名は、ナイチンゲール像にともされた「看護の灯」を、手にしたろうそくに受け継ぎ、看護の精神をうたったナイチンゲール誓詞を唱和し、その後、一人ひとりが色紙に自分の目標とする看護師像を表現し、決意表明をしました。

式後の 2 年生の姿からは看護師になる決意・覚悟が感じ取れました。



看護立志式の様子

(望月俊宏通信員)

2年7か月にわたる大型施設整備がついに完工！ 安城更生病院の発展的再構築

(JA愛知厚生連・安城更生病院)

安城更生病院（度会正人病院長）では、2019年11月より「発展的再構築」と題した大規模な施設整備を行ってきました。2021年6月「高精度放射線治療センター」開設、2021年12月地上6階建の新棟「南棟」開設に続き、2022年6月末に既存棟の改修が完工しました。

安城更生病院が位置する西三河南部西医療圏は、全国的には人口減少が進むなかで、今なお人口が増加している珍しい地域です。2020 年実績を基準とした医療介護需要予測（日本医師会「地域医療情報システム」）によると全国平均では医療・介護ともに 2030 年がピークと予想されていますが、西三河南部西医療圏では、今後も需要が増加し続け、ピークが来るのは 20 年以上先だと考えられています。

今後も増え続ける医療需要に応え、これから先も安心して過ごせる地域を目指して、安城更生病院は、限られた医療資源を効率的に運用できるように邁進してまいります。



JA愛知厚生連 職員向け広報誌「こうせい6月号」特集記事

(井桁千聡通信員)

「看護の日」のイベントを行いました

（JA愛知厚生連・渥美病院・足助病院・知多厚生病院）

5月12日は、近代看護教育の母フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで「国際看護師の日」「看護の日」が制定されおり、全国各地でイベントが実施されています。JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）の各病院でも「看護の日」に併せて看護イベントを行いました。



渥美病院

＜渥美病院＞

看護の日に合わせて、人生会議（ACP）の啓もう活動を行いました。アンケートを行い、ご存じない方へチラシを使って丁寧に説明しました。



足助病院

＜足助病院＞

規模を縮小して3年ぶりにイベントを開催しました。血圧測定や頭の体操で採血結果待ちの患者さん達に楽しんでいただきました。



知多厚生病院

＜知多厚生病院＞

院内で外来看護や病棟看護を紹介するポスター掲示を行いました。また、新人ナースがワッペン・ビブスをつけて検温チェックを行いました。

（井桁千聡通信員）

増改築工事の竣工式を行いました

(J A 愛知厚生連)

J A 愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では5月16日、株式会社アイコーにて増改築工事の竣工式を行いました。株式会社アイコーは、J A 愛知厚生連の特例子会社として寝具・洗濯業務を中心としたサービスを提供しています。2021年8月より、洗濯量増加に伴う対応として施設整備を行っており、2022年度中の稼働を目指しています。



竣工式の様子



株式会社アイコー

(井桁千聡通信員)

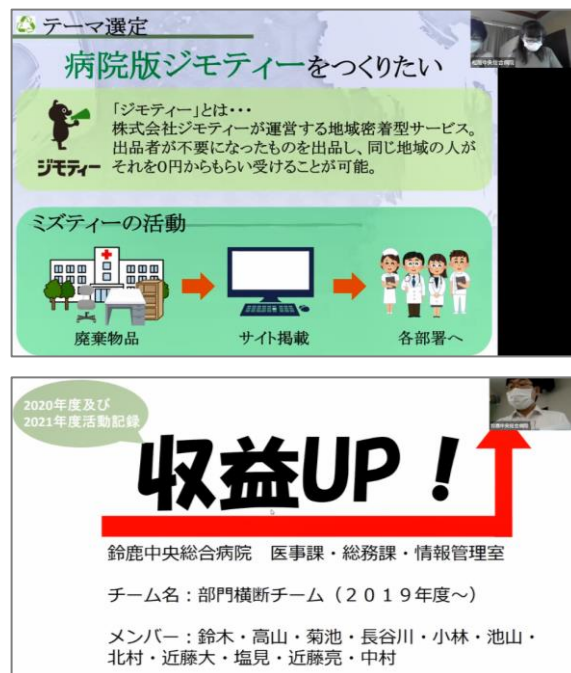
QC活動発表会を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連(庄山隆裕・代表理事理事長)では、令和4年5月21日に第7回QC発表会を開催し、8事業所12サークルがZOOMでスライドを画面共有して発表を行いました。

当初は令和4年2月を開催予定としていましたが、三重県にまん延防止等重点措置が発令され、一時は中止も検討されましたが、取り組み結果の発表機会と事業所間の情報共有を目的に、開催にこぎつけることができました。

発表の取り進めもスムーズで多彩なサークル活動に感心する機会となりました。今後もサークル活動の継続により、多職種連携の強化、患者満足度の向上など成果を期待したいと思います。



主な審査結果

結果	事業所	サークル名	概要
最優秀賞	鈴鹿中央	部門横断チーム	・診療単価UPによる収益UP ・事務職員のスキルアップ
優秀賞	松阪中央	みずてぃー	・廃棄物品をリユースし、物品の有効活用を行うことで経費削減を実現
審査員賞	菰野厚生	komoshika	・事務職員と看護師間の情報共有の強化およびWin-Winの業務改善
審査員賞	松阪中央	ひまわりの種	・救急センター移転前および稼働後の課題改善 ・救急センターでの事務職員の活躍

(教来石信彦通信員)

いなべ総合病院に敷地内薬局開局

(J A 三重厚生連)

三重北医療センターいなべ総合病院（相田直隆病院長）では令和4年6月1日から外来患者の投薬を、すべて院外処方箋に移行しました。

いなべ市唯一の総合病院である当院は、周辺に調剤薬局が無かったため、院外処方を進めることができませんでした。敷地内に調剤薬局が開設されたことにより、外来患者の院外処方が可能となりました。従来、会計後の投薬受け取り待ち時間が平均 30 分ありましたが、この待ち時間がなくなることで患者さんの利便性が向上します。またかかりつけ薬局を持っていただくことで、服薬管理の向上が期待されます。

今回の院外処方化により、薬剤師の病棟専従としてのモチベーションアップが期待されるとともに、医師・看護師の薬に関する業務を担うことで負担軽減が図られます。



アイン薬局いなべ店

(教来石信彦通信員)

令和4年度事務職員基礎研修会を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連(庄山隆裕・代表理事理事長)では、令和4年5月23日・24日に令和4年度新規採用者を対象とした、事務職員基礎研修会を開催しました。



医療人として患者に寄り添う思いやりの姿勢、多職種の医療現場のなかで頼れる存在となることなど、医療に携わる事務職員としての心構えを研修しました。また、保険診療、医療制度のことなど基礎的な医療分野の知識習得を目的に講義を行いました。途中から庄山理事長も参加して、入会してからの業務に関する感想などディスカッションを行いました。

病院経営を担う事務職員の役割は重要であり、研修で培った知識とこれからの経験を積み重ね、今後の活躍を期待しています。



事務職員基礎研修会の様子

(教来石信彦通信員)

日本赤十字社へ ウクライナ人道危機救援金贈呈

(J A徳島厚生連)

J A徳島厚生連(板東正人・代表理事理事長)では、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、人道危機対応および避難民の救援活動支援のため、阿南医療センター・吉野川医療センター・阿波病院・徳島県農



村健康管理センター・本部の職員から寄付金を募り、令和4年5月20日、板東理事長他医療関係者が日本赤十字社徳島県支部を訪れ、寄付金100万円を贈呈しました。この寄付金は、国際赤十字・赤新月社連盟等を通じてウクライナの人道危機支援や、周辺国における救援活動に充てられる予定です。

同日の贈呈式にて板東理事長は「今回の寄付は、職員の自発的な声から実現した。医療に携わるものとして、ウクライナの悲惨な現状には心が痛む。1日も早く平穏な暮らしを取り戻して欲しい。」との想いを伝えました。

ウクライナおよび世界に平和で安全な日々が戻りますことを、J A徳島厚生連役職員一同、心より願っています。



ウクライナ人道危機救援金贈呈の様子



職員へ寄付金を呼び掛け

(河野貴大通信員)

□お知らせ□

□会議日程

令和4年(2022年)

- | | |
|-----------|--|
| 7月8日(金) | 理事会 15時30分から(東京・大手町・JAビル27階「全厚連会議室」) |
| 7月12日(火) | 経営管理委員会 13時から(東京・大手町・JAビル27階「全厚連会議室」) |
| 7月26日(火) | 通常総会 11時から(東京・大手町・JAビル4階「401会議室」) |
| 7月26日(火) | *理事会 通常総会終了後(東京・大手町・JAビル3階「302会議室」) |
| 9月27日(火) | 厚生連常勤役員・参事会議 13時から(東京・KKRホテル東京10階「瑞宝の間」) |
| 10月21日(金) | *理事会 10時30分から(東京・大手町・JAビル27階「全厚連会議室」) |
| 11月18日(金) | 厚生連部課長会議 13時から(東京都内) |
| 12月7日(水) | *理事会 13時から(東京・大手町・JAビル27階「全厚連会議室」) |

令和5年(2023年)

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1月20日(金) | 厚生連常勤役員・参事会議 13時から(東京都内) |
| 1月24日(火) | 厚生連会長会議 11時から(東京都内) |
| 2月15日(水) | *理事会 13時から(東京・大手町・JAビル27階「全厚連会議室」) |
| 3月8日(水) | 臨時総会 11時から(東京都内) |

※「*理事会」については、経営管理委員会制から理事会制へ組織改編後の理事会です。